Academic Freedom × Kyoto University

企画 朝日新聞社メディアビジネス局
制作 AERAムック教育編集部

広告特集

2017 国公立大学 進学のすすめ
BUILD YOUR FUTURE

# 京都大学

Kyoto University

## 好奇心が開いた国際的研究者への扉

### 挑戦の場は海外 女性研究者の選択

1897年の創立以来、「自由の学風」が息づく京都大学。その原点は、創設に深く関わった当時の文部大臣・西園寺公望の自由思想にあるという。西園寺は20代の時、自身の強い希望で、自由の機運に満ちたフランスへ留学していた。

一世紀を経て、西園寺と同じく、若くして挑戦の場を海外に求めた女性がいる。大学院法学研究科の西谷祐子教授だ。

専門は、国境を越えた個人間の問題を解決する国際私法。1994年、同大大学院の修士課程を修了後に休学し、ドイツ最古の大学、ハイデルベルク大学での博士号取得を目指した。24歳だった。西谷教授は言う。

「若いうちから留学したほうが語学も早く身につき、将来にわたって外国人研究者とも対等に議論できるようになるのではないかと考えたのです」

19世紀の法学者マンチーニの理論を論じた博士論文は、ハイデルベルク大学の権威ある「ゼーリック賞」を受けた。その後、27歳で東北大学助教授に就き、教職の傍ら、イタリア、アメリカ、オランダへ留学。2007年からは、パリ第二大学、ドイツ・マックスプランク研究所で研究に没頭した。在外研究は5カ国、足かけ9年に及ぶ。その原動力は、「各国の法制度や、歴史的な背景をもっと知りたいという純粋な好奇心」だったという。

もともと弁護士を目指していた西谷教授。「おおらかな雰囲気が漂うキャンパスに憧れて」京都大学法学部に進学した。法曹ではなく、研究者の道を選んだのは、2年生の時だ。

### 人生を決めた国際私法との出会い

「幼い頃に父親の仕事でドイツに住んだ経験から、国際的な仕事に興味があり、大学で国際私法の授業を受けた時に『これだ』と思いました。既にある法律を動かす仕事に就くよりも、世界と比較しながら日本の法律を客観的に見つめ、改善点を提言したりする研究者になるほうが面白いのではと思ったのです」

グローバル化が進む今、国境を越えた人の動きは飛躍的に増えた。それに伴う法律問題を扱うのが、国際私法だ。

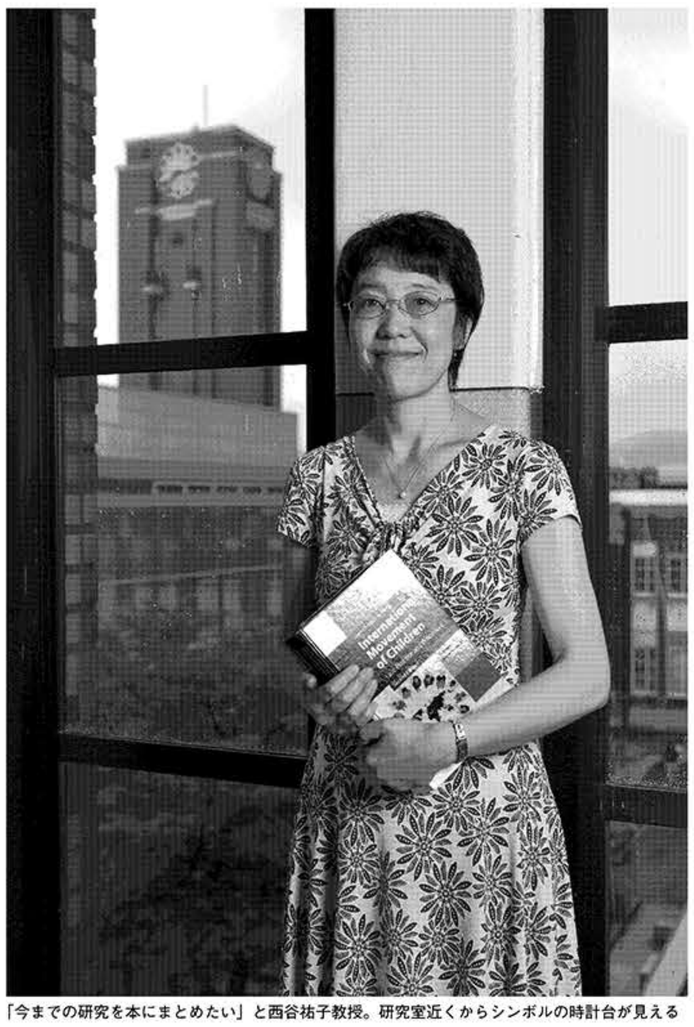
例えば国際結婚。イタリア人と日本人が結婚する場合、どちらの国の法律が適用されるかは、国際私法によって決められる。

「婚姻届けを役所に出す日本と異なり、教会の影響力が強いイタリアでは、挙式をすると夫婦と認められます。国際私法では、このように法と法がぶつかり合うときに、どの国のルールを適用するかを見ていきます。国境を越えた離婚に伴う子の親権争いや、相続のトラブルが起きたとき、国際私法が解決に役立ちます」

緑がまぶしい吉田キャンパスの中庭

西谷教授の研究室には、英語、ドイツ語、フランス語のカラフルな外国語文献がずらりと並ぶ。世界の法制度の変化は早く、知識のアップデートが日々欠かせない。

「世界では今、同性婚の増加に加えて、代理出産（代理母）を認める動きが広がっています。生まれた子と、依頼者である親との親子関係が認められず、子どもの法的な立場が保護されない深刻な状況が生まれているためです」


「今までの研究を本にまとめたい」と西谷祐子教授。研究室近くからシンボルの時計台が見える

### 独創的な学生を育む伝統の自由の学風

ゼミでは、病気で子宮を失ったタレントの向井亜紀さんが、アメリカで代理出産を依頼した事例を取り上げた。学生たちは、親子関係の成立を認めなかった2007年の最高裁決定をめぐり、白熱した議論を重ね、それぞれの見解を発表した。

「私も読んだことのない向井さんの事例についての論文や、タイやインドの代理出産の例まで調べてくる学生もいて、とても驚かされました。京大は型に縛られずに、主体的に考え、学び、行動する学生が多いと感じています」

西谷教授は、代理母や子の権利を守る国際機関「ハーグ国際私法会議」のプロジェクトメンバーでもある。国際的な研究者になる夢を叶えられたのは、「京大がやりたいことを後押ししてくれる環境だったから」と、これまでの道のりを振り返る。自由の学風が伝統のキャンパスで、世界に貢献する独創的な力は育っていく。

「のびのびした京大に来て、アンテナを張って、ぜひやりたいことを見つけてください」

大学の授業風景。国連職員を志す学生もいる

## Student's Voice

### 京大の資源を活用し、生命科学の研究者を目指す

薬学部2年生 吉本昂希（こうき）さん

生命科学の研究者になりたい。そんな夢を抱いて京大に入学しました。京大は1年生からさまざまな研究室に出入りできるのが魅力。今は、物質ー細胞統合システム拠点（iCeMS）の亀井謙一郎先生のもとへ週4日通い、「Body on a Chip」の研究に携わっています。小さなチップ上で生命体の現象を再現するというもので、コストや時間のかかる動物実験に替わる創薬の方法として期待されています。

夏休みには、所属する分子生物学の研究サークルで、松枯れを予防する薬剤開発に取り組みます。研究資金は、学内クラウドファンディング「SPEC」に応募し、寄付を募る予定。京大には自由な研究を支える制度が多くあるのがうれしいです。

### 特色入試の合格1期生 身近な経験をアピール

教育学部2年生 唐澤 和（のどか）さん

昨年度に始まった、学力試験だけでは測れない能力や学ぶ意欲を評価する「特色入試」の合格1期生です。

私は、人の価値観や学歴が、親や周囲の環境によって左右されることに違和感を覚え、教育社会学を学びたいと考えていました。入学後の研究計画を書く「学びの設計書」には、「親の年収と子の学力の相関」「平等な教育の実現可能性」などについてまとめ、さらに、自分の「特色」である「身近な物事を客観的に考察する力」を、高校のクラス演劇や地元の阿波踊りなど頑張ってきた経験と絡めてアピールしました。

京大は個性的な人が多く、お互いを認め合う校風。自分の「特色」を生かして、学びを深めるのに最適な環境だと思います。

## Vice President's Voice 副学長の声

### 自分だけの「おもろい」が研究の原点

京都大学の特徴は、研究型大学であること。研究所・センターの数は全国の大学で最多、学部卒業生の約6割が大学院に進みます。研究を進める上でなにより大切なのがオリジナリティー。既に誰かが手をつけているテーマに取り組んでも、ノーベル賞に手が届くことはありません。今は誰も注目していなくとも、自分が「おもろい」と感じた対象に全力で取り組むことが求められます。

ユニークな研究と出合うために必要な、多様性に富んだ環境が京都大学にはあります。さまざまな人が自分の考えをぶつけ合い、違いを認め、刺激を受けるなかで、自分の関心領域が定まっていきます。

より多様な環境を作るために、海外からの留学生を受け入れる仕組みも整えてきました。留学生と一緒に英語で授業を受けるプログラムや、4年間英語による授業のみで学位を取得するコースに加え、10月からは「KYOTO iUP（アイアップ）」がスタートします。これは海外の高校の卒業生が、半年間の日本語教育を受けた後、来年4月から学部新入生として日本人学生とともに学ぶプログラムです。

身近に世界中から来た同年代の若者がいる。そんな環境での学びは、多様な考え方を受け入れる力やコミュニケーション力を育み、将来のグローバルリーダー養成につながるでしょう。

研究の面白さを、高校生に伝える高大連携の取り組みにも注目してください。高校生向けの最先端科学の体験講座「ELCAS（エルキャス）」は、大学と同レベルの講義と研究を半年かけて行い、最後は参加した高校生に成果発表までしてもらいます。

大学入学がゴールなのではなく、合格後に新しい人生が始まります。学問を究める過程で身につく「考える力」は、長い人生を生き抜くための基盤となります。仲間とともに悩み、喜びを分かち合いながら、自分なりの「おもろい」を突き詰めていく。二度とない貴重な時間を、ぜひ京都大学で過ごしてください。

北野正雄 副学長

京都大学キャンパスライフ、夢を描く2日間。

オープンキャンパス2017

進路や学生生活についての相談コーナーなど、
京都大学の教育・研究を知っていただくための企画を多数ご用意して、
皆様のご参加をお待ちしております。

日時 8/9(水)・10(木) (9:00～17:00)
会場 百周年時計台記念ホールほか 京都大学吉田キャンパス各構内
プログラム オープニングセレモニー／学部説明会／相談コーナー／在学生交流コーナー／キャンパスツアー 附属図書館見学／総合博物館見学 ほか ※一部事前申し込みが必要な企画があります。

お問い合わせ
京都大学 教育推進・学生支援部 入試企画課（オープンキャンパス担当）
Tel.075-753-2523,2524
■京都大学オープンキャンパス2017 ホームページ http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp
■京都大学ホームページ http://www.kyoto-u.ac.jp
■京都大学 携帯電話サイト http://daigakujc.jp/kyoto-u/

Think Global, Act Local × Tsuru University

企画 朝日新聞社メディアビジネス局
制作 AERAムック教育編集部

広告特集

2017 国公立大学 進学のすすめ BUILD YOUR FUTURE

# 教員養成の伝統をグローバル人材の育成に

理科が得意な小学校教員養成にも力を入れる都留文科大学。谷二ラボは、学生が同小学校の子どもたちと理科の実験をする活動で、2011年度から開催している。

初等教育学科の山森美穂准教授は活動の目的をこう話す。

「実際、子どもたちを相手に実験をするとなると、学生がものすごく真剣に取り組むんです。その意欲的な態度にとても意味があると思い、ゼミ生の有志と活動を始めました」

今回の実験テーマは「振ると色が変わる液体」。色の変化を楽しみながら酸化還元反応について学ぶことが目標だ。子どもたち一人ひとりに薬品を混ぜた水溶液を作ってもらい、そこに学生が異なる液体を加えると緑色に。しばらくすると赤色、黄色へと変化した。それを振ると、また赤色を経て緑色に。「不思議だよね。どうしてだと思う?」と、伏見さんたちが声を掛ける。

学長補佐・中井均教授
(初等教育学科)

子どもたちは、容器を振ったり止めたりして目を丸くしていた。

実験の計画を練り、準備をするのは学生たちだ。安全面を考慮しつつ、楽しいショーで終わらないものを提案する。今回は、はかりやスポイトといった実験器具に触れてもらうことも目的の一つ。水溶液を入れるためのフィルムケースを人数分用意したり、保護眼鏡やビニール手袋をそろえたり。

「準備がバタバタになってしまったのと、説明の言葉が多すぎたのが今回の反省点です」

と伏見さんは言う。学生は子どもたちと接しながら課題を見つけ、解決法を導き出していく。

伏見さんが谷二ラボに参加した当初にぶつかった壁は「子どもたちに話を聞いてもらうことの難しさ」だった。そこで編み出した対処法は、「グループに分かれたなかで、それぞれ真剣に聞いてくれる子を見つける。その子を中心にグループ全体を盛り上げる」ことだった。今では、「教育実習の前に小学生と触れ合う機会が持てたので、とても勉強になった」と、谷二ラボの効果を実感している。

不思議そうな表情の子どもに、学生が優しく教える

## 学生が計画を練り小学生に理科実験

「これから実験の流れを説明します」。緊張した面持ちで伏見華奈さん(初等教育学科4年)が話し始めた。小学4~6年の子どもたち20人が耳を傾ける。放課後、山梨県都留市にある市立谷村第二小学校の理科室で始まった「谷二ラボ」でのひとコマだ。

中央が伏見華奈さん。フィルムケースより大きなフラスコでも実験

# 都留文科大学

Tsuru University

「子ども理解」を重視した教員養成を行う都留文科大学では、教員を目指す学生が市内の小中学校に学習支援員として入る学生アシスタント・ティーチャー(SAT)制度も充実している。教育の現場を日常的に体験できる学校版インターンで、教職を志望するほぼすべての学生が参加している。

## 学生は全国から集まり地域交流活動も盛ん

「地域との関わりも本学の非常に大きな特徴です」

と話すのは、初等教育学科の中井均教授。全国から集まった都留文科大学の学生は市民の約10分の1になるという。そんな大学都市・都留市との関係が教育を支えている。

谷二ラボのような地域との交流や連携活動を支援するのは、学内の地域交流研究センターだ。豊かな自然に囲まれた都留文科大学の環境を生かし、地域を「フィールド・ミュージアム」と捉えて、自然や暮らしの知恵を学ぶ取り組みなどを実施している。学生が地域の魅力や課題を見つけ、学び合う目的で制作している機関誌「フィールド・ノート」の制作もその一つ。企画から取材、執筆、編集まで学生主体で行い、年4回700部を発行。市民ら購読者に届けられている。ほかにも、近くの森に住むムササビの生態を観察・記録する「ムササビ・ライブカメラ事業」など多彩な活動を続けている。

こうした「自然」や「地域」に根差した理系の活動にも力を入れてきた都留文科大学。来年度は、これまで文学部だけだった学部を、学校教育学科と地域社会学科で編成する教養学部との二本柱に改編し、文学部の枠を超えた分野に踏み出す方針だ。

学校教育学科では、これまで切望されていた数学と理科の中学校教諭一種免許の取得が可能になる予定。それにより小学校から中学校までの主要5科目の教員養成が実現する。

地域社会学科では、従来の社会学科に「地域」というキーワードを加え、ワークショップやフィールドワーク、プロジェクト研究などの実践科目を強化する。理論と実践の双方を徹底的に学んでもらい、創造力のある人材の育成を目指していく。

地域の人との関わりから生まれた空き家利用の「つるまち図書館」。社会学科の学生が運営する

President's Voice 学長の声

# 理系教員養成も可能に。新年度から教養学部がスタート

福田誠治 学長

教員養成を中心とした大学として60年以上の歴史を持つ本学は、これまでの伝統にグローバリズムを重ねて、教育の質を上げることを目指しています。富士山麓の、人口約3万1千人の都留市にあり、全国各地から来た学生の多くが大学周辺に下宿をしています。勉強に集中できる環境で地域に根差した生活を送りながら、広い世界を視野に入れた教育を受けられるのが本学の特徴です。

国際的な教育プログラム「国際バカロレア」(IB)の認定校にもなり、IBに対応した教員養成を担うことになりました。今年4月に新設した国際教育学科では、ほとんどの科目でバイリンガル授業を実施し、2年次後期には全員が北欧3カ国へ交換留学に出かけます。デンマークの全教育大学と、スウェーデンのウプサラ大学とは既に交換留学協定を結んでおり、現場体験も含めて現地の教育を学ぶことが可能です。

さらに、来年4月には教養学部を開設。既存の初等教育学科と社会学科を改編し、ここに置きます。新たな「学校教育学科」では、小中一貫教育を担う教員養成となり、念願だった理科と数学の中学校教諭一種免許を取得できるようになる予定です。「地域社会学科」は、現在の2専攻を地域経営、公共政策、環境社会、教育文化の4コースに拡大します。世界規模で物事を考え、地に足をつけて行動する人材の育成に力を入れていきます。

また、既存の英文学科と比較文化学科はグローバル化が進む現代に合わせ、高い英語力を学べる教育を重視しています。今後は、日本やアジアの文化を英語で表現する力が重要になってくるでしょう。これは、日本の文学を学ぶ国文学科の学生にとっても同様です。

現在、卒業生の半数以上は企業に就職しています。実践力を培える本学の教育は、教員だけでなく企業人になっても有効です。将来は、国境を越えて働ける社会人になってほしいと考えています。

Student's Voice

## 都留興譲館高校との高大接続連携事業に参加し、今年4月に入学

初等教育学科1年生 **渡辺徹平**さん

昨年度から始まった、山梨県立都留興譲館高校と都留文科大学との高大接続連携事業に参加し、高校3年の時に大学の授業を毎週1コマ受けました。僕は小学生のころから教師を目指し、都留文科大学を志望していました。ひと足早く授業を体験できるうえに高校の単位にもなるので、応募しました。

授業は生徒3人と、科目ごとに替わる先生とのゼミ形式で、国語や数学、理科のほか、教育基礎などを教わりました。教わったことをその場で自分の言葉で説明するといった場面もあり、人に伝えることの難しさがわかり、とても勉強になりました。

入学前に約1年間授業を受けたことで志望大学をより明確に知ることができ、参加した意義がありました。

大学では空き時間にも友人と自主学習

## 地域の子どもたちを支援する「あつまれ! つるっ子!」プロジェクトを立ち上げ

国文学科4年生 **青野秀哉**さん

「あつまれ! つるっ子!」プロジェクトは、毎週第3土曜日に地域の子どもが集まれる場所を作り、そこで勉強を教えたり、一緒に遊んだりする活動です。3年の秋に地域に貢献したいと思い、友人と立ち上げました。今では未就学児から中学生まで 10人以上の子どもたちが来てくれます。先生や地域の人たち、JAなどから寄付金や食材を提供していただき、運営しています。都留文科大学は奉仕活動をする学生が多いので、協力を得やすい環境があったのが幸いでした。

僕はこの活動を通して、一人でできることは限られており、人と協力し合うことが大切だと学びました。それは大人でも子どもでも変わりません。教師を目指しているので、学校でこの経験を伝えていきたいと思っています。

地域の人と子どもたちに提供する食事の準備

都留国際文学祭
Tsuru International Literary Festival 2017
"つるの音がえし" 文学は世界の壁を突き抜ける

主催:都留国際文学祭実行委員会 協賛:富士急行株式会社

日本語・ドイツ語で創作をつづける芥川賞作家で本学特任教授の多和田葉子氏、ヨーロッパを拠点に即興ジャズピアニストとして活躍する高瀬アキ氏をはじめ、著名な詩人、翻訳家、音楽家、文学研究者を国内外からお招きし、都留国際文学祭を開催いたします。入場は無料。皆さまのご来場をお待ちしております。

日時 8/8(火) 17:30~20:00 会場:うぐいすホール(山梨県都留市上谷1888-1)
9(水) 9:30~17:00 会場:都留文科大学、うぐいすホール

出演者 作家・詩人 国文学科特任教授 多和田葉子氏
ジャズピアニスト 高瀬アキ氏

夏季オープンキャンパス
7/15(土)・16(日) 9:00~15:00
15日/教養学部 学校教育学科・地域社会学科
文学部 国際教育学科
16日/文学部 国文学科・英文学科
比較文化学科・国際教育学科
※個別相談会は全学科で両日実施します

秋季オープンキャンパス
10/9(月・祝)~13(金) 9:10~16:20
※11日(水)を除く

教養学部(2018年4月開設)
●学校教育学科 ●地域社会学科
文学部
●国文学科 ●英文学科 ●比較文化学科
●国際教育学科

お問い合わせ
都留文科大学 経営企画課
〒402-8555 山梨県都留市田原3丁目8番1号
Tel:0554-43-4341(代表)
http://www.tsuru.ac.jp/

都留文科大学

Statement for 2030 × Tokyo Tech

企画 朝日新聞社メディアビジネス局
制作 AERAムック教育編集部

広告特集

2017 国公立大学 進学のすすめ BUILD YOUR FUTURE

# 東工大が新しい活力ある社会を切り開く

## 東工大にしかできない教育・研究改革

2030年に創立150周年を迎える東京工業大学は、「世界トップ10に入るリサーチユニバーシティ」を目標に掲げている。その実現に向けて、昨年春から教育・研究改革を精力的に進めている。学部と大学院を統合・再編した六つの「学院」(理、工、物質理工、情報理工、生命理工、環境・社会理工)、教養教育の専門家集団が担う「リベラルアーツ研究教育院」、従来の研究所を再編・集結した「科学技術創成研究院」を相次いで設置した。

改革2年目を迎えた今年、三島良直学長は、その手応えを次のように語る。

「今年の2月、昨年入学した1年生を相手に、私自身が大学時代の『志』を語るという催しを行いました。講演後の質疑応答では今までにないくらい多くの学生から手が上がり、その後の懇親会でも質問攻めにあいました。こんな元気な姿は見たことがありません。これも、入学直後に『東工大立志プロジェクト』(右下記事参照)を経験したからだと思います」

## 目指すビジョンを共有するために

三島学長は、世界トップ10に入るためには、組織改革と同時に、学生・教職員・執行部らが大学の目指すビジョンを共有することが大事だと考えたという。そこでスタートしたのが、「2030年の東工大像」を策定するプロジェクトだ。

昨年秋からワークショップを4回実施。東工大独自の強みはどこにあるのか、その強みで節目となる30年の社会にどんな価値を提供できるのかが話し合われた。「その人たちがやりたいように研究をしてもらう」「他では気づかないシーズ(種)を育てる」「高い専門性とある程度の協調性を併せ持つマニアックな人材を輩出する」など、独創的な意見が多く出された。

「『世間におもねることのない尖った存在であり続けたい』という、みんなの思いを強く感じました。理工系総合大学として最高の『知』が集結した大学であるという自負、科学・技術の力で世の中を豊かにしたいという『志』も鮮明になりました。さらにわかったのは、学生・教員・職員らの距離がすごく近くて、なんでもざっくばらんに話し合える空気を持ち合わせていたということ。これも本学の良さだと思います」(三島学長)

ワークショップの成果と東工大改革の方向性をまとめた『2030年に向けた東京工業大学のステートメント』を発表。「ちがう未来を、見つめていく。」というスローガンを全学的に共有する"Spirit"として打ち出した。

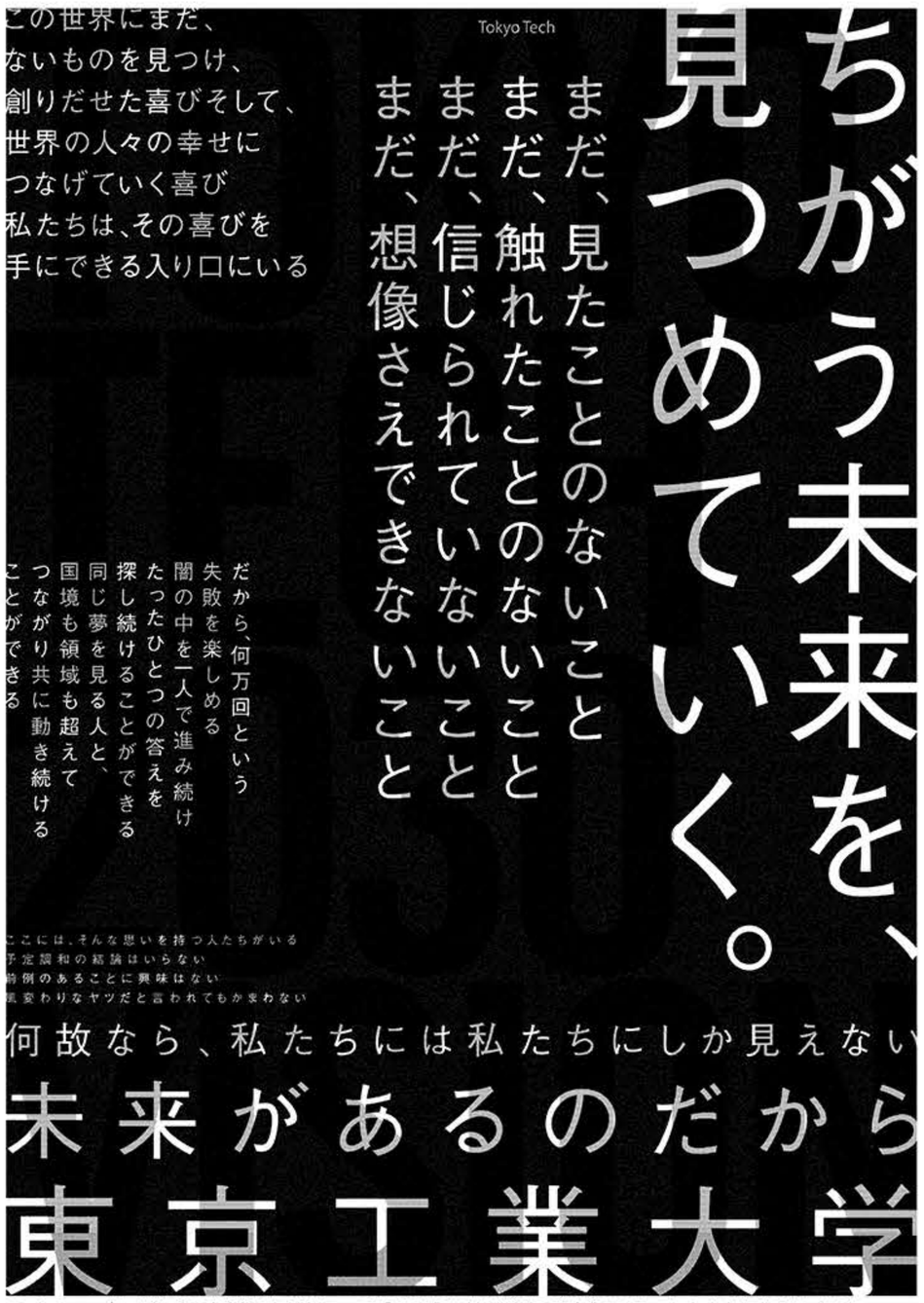
「今後、本学の構成員一人ひとりが、"Spirit"を胸に抱き、『尖らせる』『共鳴する』『実装する』"Action"で、新しい社会を切り開いていく。それにより、必ずや本学が目指す姿に達することができると確信しています」(三島学長)

東工大の未来像を語る三島良直学長

Tokyo Tech

# 東京工業大学

Tokyo Institute of Technology




ワークショップの成果と東工大改革の方向性について「2030年に向けた東京工業大学のステートメント」としてまとめられ、ポスターも制作された

## 2030年に向けた東京工業大学のステートメント

Tokyo Tech 2030特設ページ
http://www.titech.ac.jp/tokyotech2030/

### Spirit

**ちがう未来を、見つめていく。**

まだ、見たことのないこと
まだ、触れたことのないこと
まだ、信じられていないこと
まだ、想像さえできないこと

この世界に
まだ、ないものを見つけ、創りだせた喜び
そして、世界の人々の幸せにつなげていく喜び
私たちは、その喜びを手にできる入り口にいる

だから、何万回という失敗を楽しめる
闇の中を一人で進み続け
たったひとつの答えを探し続けることができる
同じ夢を見る人と、国境も領域も超えてつながり
共に動き続けることができる

ここには、そんな思いを持つ人たちがいる
予定調和の結論はいらない
前例のあることに興味はない
風変わりなヤツだと言われてもかまわない
何故なら、私たちには私たちにしか見えない
未来があるのだから

### Action

**1 尖らせる**

私たちは知の源泉は、個人の多様性と先鋭性の中にあると考える。だからこそ、高い「志」を何よりも大切にし、基礎領域から応用領域まで、自由な研究と発想を尊重する。それとともに、"Student-centered"を教育理念に置いて、学生の主体的な学びを重んじることで、世界で活躍する人材の育成を目指していく。

**2 共鳴する**

私たちはこれまでの垣根を超えて、新領域・融合領域の教育研究をさらに進める。個人の専門性を尊重しながら、大学が「知の共鳴場」となって、新しい知を持続的に生み出していく。さらに世界との協働、社会との連携を進め、開かれた教育研究機関として、新しい理工系総合大学の形を世界に先駆け実現していく。

**3 実装する**

私たちは新たなイノベーションで人々の生活を豊かにするために、大学から生まれた知を様々な形で社会に実装していく。産学連携研究の進化、科学・技術のコンサルティング、アントレプレナーシップ醸成、ベンチャー育成・支援。本学の変わらぬ理念である「新産業の創造」を未来に起こしていくために動き出す。

ワークショップとは?

## 輪になって座り対話をするところから

「本学の将来のビジョンをつくるには、会議ではなく、ワークショップで行うことが重要だと考えました」

こう語るのは、上記のワークショップでファシリテーターを務めた、リベラルアーツ研究教育院の中野民夫教授だ。

今回のワークショップは、4人一組の小さなグループになって、互いの意見を出し合った。その際に威力を発揮したのが、直径80センチの円形に切り抜かれた段ボール「えんたくん」だ。向かい合った4人の膝の上にこれを置き、「東工大がいいなと思った瞬間はいつ、どんな時ですか」といった具体的な質問をしながら意見をシェアする。年代や、学生・教職員・執行部といった立場の違いを認識しながらテーマを深めていったという。

こうした手法は、昨年春から1年生全員を対象にして始まった授業「東工大立志プロジェクト」でも取り入れられている。

与えられた問題の正解を出すのが高校までの学びとするなら、大学の学びは自ら問いを立てることへと変わる。立志プロジェクトは、大学生活で広がる無限の可能性の中で自分は何をしたいのか、何ができるのか、その「志」を自らに問いかける授業だ。さまざまな分野の専門家による大人数講義と、少人数のグループワークとを交互に繰り返しながら考える力を養い、自身の志を深めていくという。

「この授業を通じて、彼らの志が徐々に明確になっていく様子を見るのは、非常にうれしいですね。アクティブ・ラーニングが話題となっていますが、主体的で協働的な学びの場として、対話重視のワークショップは非常に有効な手段だと思います」(中野教授)

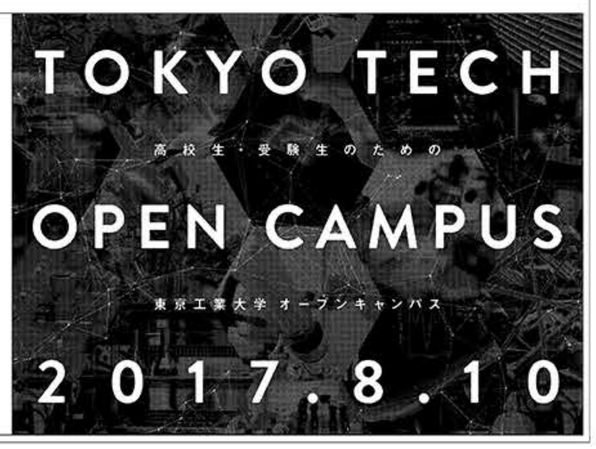
ワークショップで輪になって話し合う学長や教職員

# 世界トップクラスの教育システムで学ぶ

## 8月10日(木)オープンキャンパス(大岡山キャンパス)を開催します!

東工大では、自らの興味・関心に基づく幅広い選択やチャレンジが可能になるカリキュラム、留学がしやすい授業制度(クォーター制)など、みなさんの夢や希望を実現するために学べる教育システムを用意しています。
みなさんがこのシステムを十分活用し、将来、科学・技術の力で世界に貢献するのだという気概と高い志を持ち、真の学ぶ喜びを知って充実した大学生活を送ることができるように、しっかりサポートします。ぜひ大岡山キャンパスで、東工大の魅力を体感してください。

**学院構成** 理学院/工学院/物質理工学院/情報理工学院/生命理工学院/環境・社会理工学院

■お問い合わせ
東京工業大学 アドミッション部門・学務部入試課
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1
TEL:03-5734-3990
E-mail:opencampus@jim.titech.ac.jp
URL:http://bit.ly/tokyotechOC

東京工業大学
Tokyo Institute of Technology